



あの人

この人



「お灸の接待でお遍路さんを癒やしたい」と話す弓田さん

歩き遍路で四国霊場を巡るお遍路さんに、お灸の接待をしている鍼灸師の弓田潔明さん(43)―高松市―は「疲れた体を癒やし、心のこもったおもてなしができれば」とほほ笑む。

お灸というと、「熱い」「痛い」という印象が先行しがち。そんなイメージを拭い去り、お灸の魅力や文化を広く知ってほしいとの思いで始めた。

小さく丸めたモグサを患部にのせ、線香で少しずつ火をつける。ほんわかと香りが漂い、心も落ち着く。先を急ぐお遍路さんも気軽に立ち寄れるよう、遍路道沿いにある鍼灸院の軒先に

## お遍路さん お灸で接待

置いたベンチで施術。休憩がてらの約10分間、安らぎを提供する。

灸をすえるのは、膝のすぐ下にある「足三里」。脚の疲れが取れ、胃腸の働きも良くなるという巡礼者にはうってつけのツボ。松尾芭蕉も足三里にお灸をして「奥の細道」の旅をしたといわれる。

お遍路さんだけでなく、開催中の「瀬戸内国際芸術祭2016」に訪れた県内外の観光客も対象に行っており、「『気持ちのお土産』を持ち帰ってほしい」。無事に旅ができるように願いを込めながら、おもてなしに努める。